

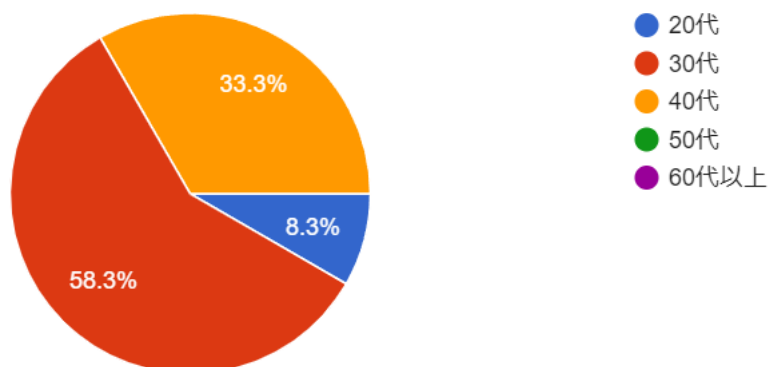


2022年度 一般社団法人北海道医療ソーシャルワーカー協会実践講座「認知症高齢者へのソーシャルワーク支援」オンライン アンケート

本日はご多忙の中ご参加いただき、誠にありがとうございました。アンケートにご協力をお願い致します。

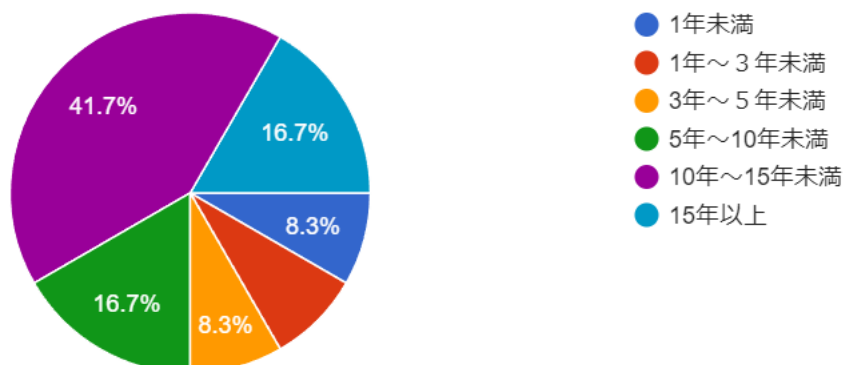
1. 年齢

12件の回答



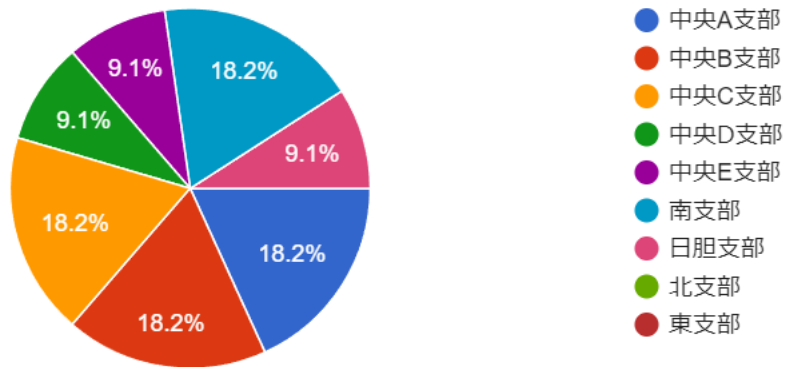
2. ソーシャルワーカーとしての経験年数

12件の回答



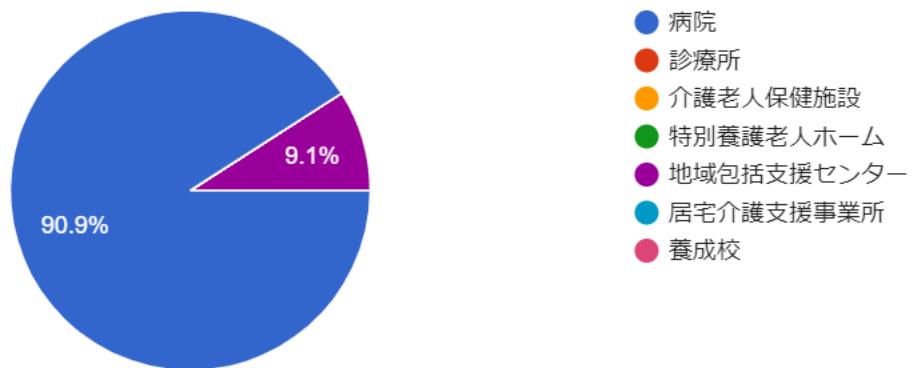
3. 会員種別

11 件の回答



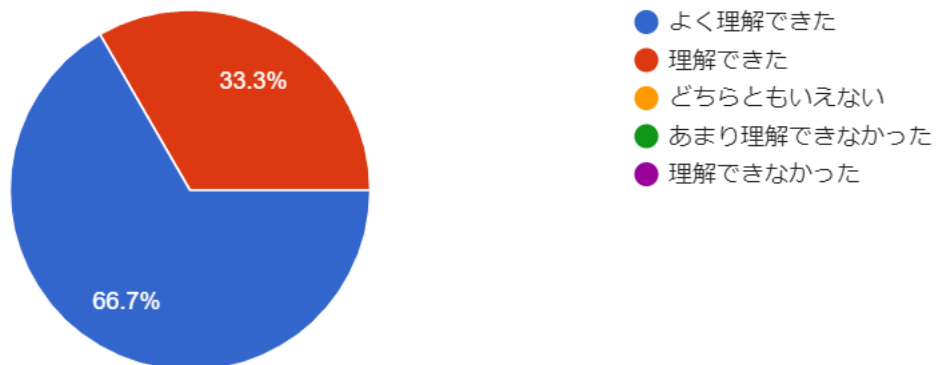
4. 所属機関

11 件の回答



5. (1) 講義の理解度について、次のうちあてはまるものにひとつチェックをつけてください。

12 件の回答



5. (2) 上記でそのように答えた理由についても、ご記入ください。

5 件の回答

意思決定支援の最後の砦として理解しておくべきポイントがわかったため。

認知症の意思決定支援について学びを深めることができました。また、ネガティブ・ケイパビリティについて印象に残りました。多職種で患者さんにとって最善とは何かを話し合い、正解を求めることが正しいことではないことを学びました。

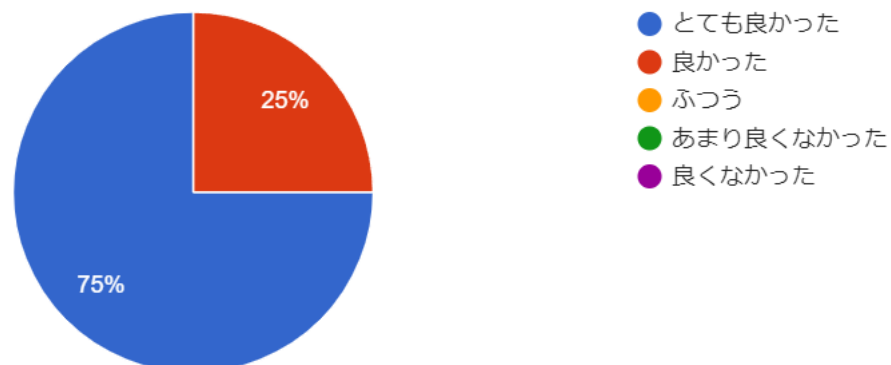
内容は盛りだくさんで難しいテーマでもありますが、具体的な事例や、同意書・ICなど身近なことを用いて説明していただき、理解がしやすかったです。認知症だから理解できないではなく、医療従事者側の説明不足によって理解できないのではないかととても共感してしまいました。

具体的でわかりやすかったです

医師や看護師からの説明が不十分で、患者が決定出来ないだけでなく、認知症扱いされるようなケースは私も多く見ている。その場合、MSWが少し噛み砕いたり、置き換えて説明する程度で理解を促して、意思決定に繋げることが出来た経験は多い。同時に、医師や看護師がSW記録を読んで、驚かれることも多い。それは単に当院のレベルが低いからと考えていたが、そうではないことを理解した。その他、無縁社会の進行に伴う、身寄り問題については、近所の公設病院がそれを理由に入院は愚か救急車すら断る様な現況にて、今後の交渉材料として大変参考になった。倫理委員会について、当院設置が無く、本来ならば倫理委員会に掛けなければならないような案件を医師とMSWとで話し合い決定している現状を鑑みて、より早急な設置の必要性を感じた。

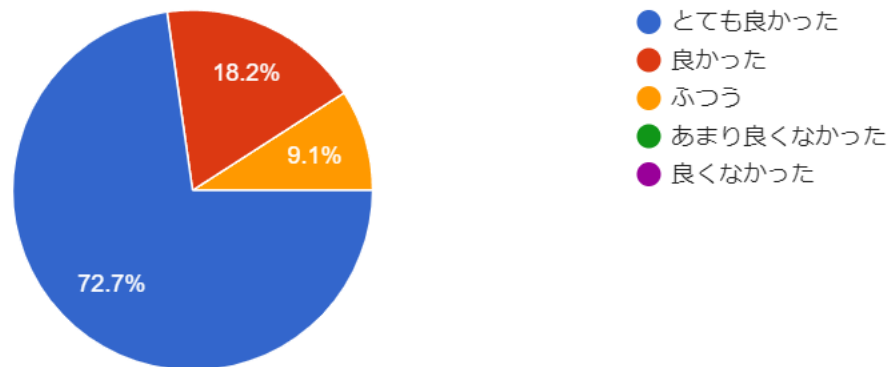
6. (1) 実践報告①について、次のうちあてはまるものにひとつチェックをつけてください。

12 件の回答



6. (2) 実践報告②について、次のうちあてはまるものにひとつチェックをつけてください。

11件の回答



6. (3) 上記でそのように答えた理由についてもご記入ください。

6件の回答

してはいけないコミュニケーション術とその理由について聞いたことがよかった。

実践例がわかりやすく共感できました。

先入観を持ってはいけないと強く感じました。意思決定ができるようにソーシャルワーカーが係わるのが大切であることを学びました。

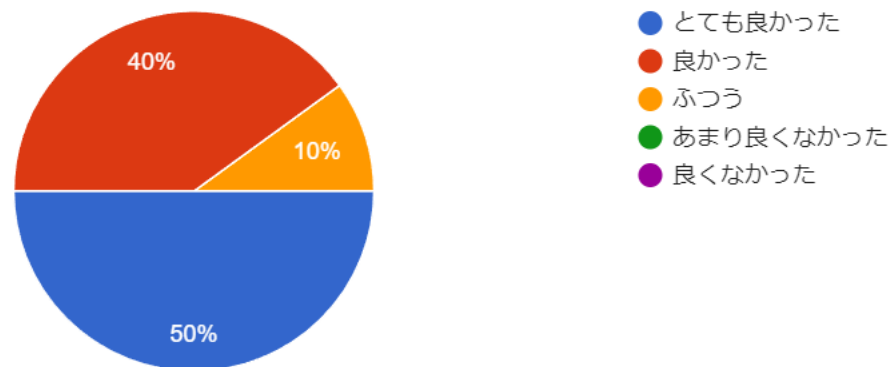
認知症の方への対応のポイントがとても参考になりました。
地域包括支援センターの相談対応の実情を知る、良い機会となりました。本人が困っていない、必要ない等でなかなか介入や支援が難しいケースも多い中、生活状況や地域住民等からの相談においても動いていかなければならない、地域ならではの大変さや難しさがあると痛感しました。

②は音声少し聞き取りづらかったです

実践報告①については、各個人の反応速度に関する意識が欠けていることに気が付いた点、またその反応に対して30秒待つことがせつかな自分に取って課題となり得ることに気が付いた点は、大きな収穫だった。実践報告②については、日頃地域包括支援センターから認知症高齢者の入院相談を受けたり、逆に定期訪問をお願いしたりとやり取りすることが多い身の為、正直余り目新しい物は無かったものの、改めて地域包括支援センターのSWが持つ視点を学び、特に在宅復帰支援に活かしたいと考えた。

7. (1) 総合討議について、次のうちあてはまるものにひとつチェックをつけてください。

10件の回答



7. (2) 上記でそのように答えた理由についても、ご記入ください。

4件の回答

認知症の方と接する時だけに言えることではなく、ソーシャルワーカーとしてその人の生活を知りたい、教えて頂きたいという気持ちが大切であることを改めて感じました。

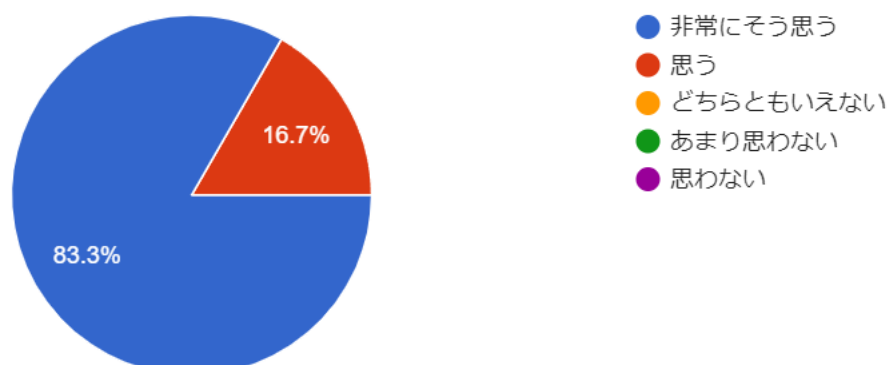
サポートチームのような体制は絶対に必要だと思いますが、実施していくにあたり、それによって考えなければならぬ他の影響もあるというお話が、とても印象に残りました。

ご質問にお答えいただきまして、ありがとうございました。
外科系の急性期病院としての視座を広げていただいたように思います。

倫理委員会の立ち上げについて触れられていたが、良くも悪くも田舎で在院日数が多少超過しても煩くない地の利を如何無く活かして、また日常的に相談の多い医師や看護師を味方に付けて、話を広げたいと考えるきっかけになった。

8. (1) 本研修を受講し新たな気づきや振り返りとなる点はありましたか。

12件の回答



8. (2) その理由をご記入ください。

6件の回答

病院が求めるキーパーソン(家族)の役割と現実が折り合わないことがふえてきており、多様化する家族像、社会との関係性を踏まえて病院側の一律的な対応では限界があると思います。その中で自分が整理しなければいけない視点を学ぶことができたと思います。

認知症のある方のケースを担当したことがまだないのですが、今後認知症のある方とお話する時や担当する時は今回の研修で学んだことを意識しながら関わっていきたいです。

倫理的な課題の検討はとても大事なことであることを改めて感じました。総合討議の中で急性期の整形外科病院の方の話からの討議にもありましたが、病院内に倫理的な課題を話し合うことを根付かせる難しさはあるとは思いますが、治療を行う上で基本的なことだと思いますし、各病院の努力に帰するだけでなく社会全体で共有できるよう何かよい仕組みができないかと思いました。

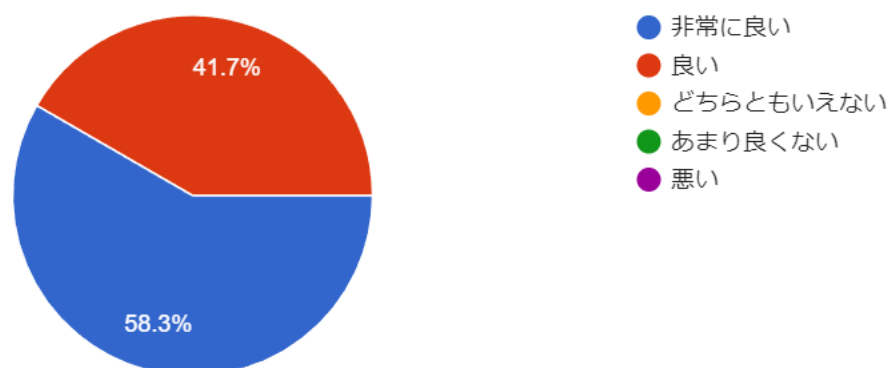
講義を聞いていて、本来は家族同意ではなく、倫理サポートチームのような組織に検討を依頼すべきケースが、当院でもこれまでも多々あると考えさせられました。現在の院内環境ではこのようなテーマについて他職種等の理解が難しいのが実情ですが、まずは同じ意見や方向性を向ける人が誰か(いるのか)、というところから始めていけるといいなと感じました。認知症の患者様との接し方で「説得になっていないか」「本人の意向を聞いているのか」という点は、認知症の方以外の方と関わる際にも、基本姿勢として忘れないようにしたいです。

中程度の認知症でも希望を伝えることができるということを他職員に伝えていきたい

※上記の回答に含まれている。

9. 本日の研修についてお伺いします。運営の段取り、見やすさ・聞きやすさなどはいかがでしたでしょうか。次のうちあてはまるものにひとつチェックをつけてください。

12件の回答



今後の研修運営などご希望を自由にご記入ください。

1件の回答

希望ではありません。体調不良にてカメラOFFにて参加しまして失礼いたしました。